

《担当者名》 教授/飯田 貴俊 tiida@ 講師/飯泉 智子 非常勤講師/奥野 健太郎 非常勤講師/濱田 浩美

【概要】

多様化する社会のニーズに対応できる歯科医師の育成を目的として、摂食機能や構音機能等に障害がある有病高齢者、障害児・者が持つ生物学的特徴を把握し、その評価・対応法そして社会的な変化について学習する。4年次に高齢者・障害者歯科学で学んだ各障害への対応について、より専門的な視点で知識を深掘りし、理解を深める。

【学修目標】

- リハビリテーション医学における障害の構造について説明できる。
- 摂食嚥下の意義と制御機構を説明できる。
- 摂食嚥下障害の原因、病態を説明できる。
- 摂食嚥下障害の評価と診断について説明できる。
- 摂食嚥下リハビリテーションについて説明できる。
- 発達期の摂食嚥下障害の評価と診断について説明できる。
- 発達期の摂食嚥下障害のリハビリテーションを説明できる。
- 摂食嚥下障害患者の栄養管理や食形態の調整を説明できる。
- 摂食時の全身管理としてバイタルサインの意義とそのモニタリング方法を説明できる。
- 摂食嚥下障害患者の口腔健康管理の用具や処置を説明できる。
- かかりつけ歯科医等の役割や地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を理解し、実践に必要な能力を身に付ける。
- 地域における在宅医療（訪問歯科診療を含む）、救急医療及び離党・へき地医療の体制を説明できる。
- 在宅医療（訪問歯科診療を含む）を説明できる。
- 睡眠障害の症状を説明できる。
- 睡眠時無呼吸の原因、診察、検査、診断及び治療方針を概説できる。
- 構音器官としての口腔の形態と機能を説明できる。
- 発音・構音・発語障害の原因、診察、検査、診断および治療方針を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	口腔機能リハビリテーション総論	リハビリテーション医学における障害の構造について説明できる。 リハビリテーション医学の概念を説明できる。 リハビリテーションに関わる職種と、多職種協働について説明できる。 超高齢社会における歯科の役割について説明できる。 B-1	飯田 貴俊
2	摂食嚥下に関わる解剖生理学	摂食嚥下の5期分類について説明できる。 嚥下時の関連器官の働きについて説明できる。 プロセスモデルについて説明できる。 E-2-1)	飯田 貴俊
3	成人期の摂食嚥下障害に関わる全身疾患	摂食嚥下障害の原因となる成人期の疾患について説明できる。 脳血管障害の病態と、摂食嚥下機能への影響について説明できる。 パーキンソン病等の神経・筋疾患の病態と、摂食嚥下機能への影響について説明できる。 E-2-4)-(11)	飯田 貴俊
4	口腔機能の発達と小児期の摂食嚥下障害	乳幼児期の摂食嚥下機能の獲得について学ぶ。 発達期の摂食嚥下リハビリテーションについて説明できる。 E-5-2)	飯田 貴俊
5	摂食機能療法に関わる全身的评价(栄養、呼吸、ADL)	呼吸及び栄養状態のアセスメント方法について学ぶ。 ADLに関わる評価方法を学ぶ。 サルコペニア、廃用症候群の概念を理解する。	飯田 貴俊

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		E-5-1)	
6	摂食嚥下機能の評価	摂食嚥下スクリーニング検査について理解する。 嚥下内視鏡検査の目的、適応、利点・欠点について説明できる。 嚥下内視鏡検査の診断方法を説明できる。 嚥下造影検査の目的、適応、利点・欠点について説明できる。 嚥下造影検査の診断方法を説明できる。 E-5-2)	飯田 貴俊
7	摂食機能療法1 治療的アプローチ	治療的アプローチである間接訓練・直接訓練の考え方を説明できる。 間接訓練・直接訓練の目的と手技を説明できる。 E-5-1)	飯田 貴俊
8	摂食機能療法2 代償的アプローチ、その他のアプローチ	代償的アプローチとして、食事形態調整、嚥下補助装置（舌接触補助床等）の目的、方法を説明できる。 環境改善的アプローチの概念と実例を説明できる。 心理的アプローチの概念を説明できる。 E-5-1)、E-5-1)	飯田 貴俊
9	摂食機能療法3 認知症の方への食支援	認知症の背景にあるアルツハイマー病、レビー小体病、脳血管障害の特徴について理解する。 認知症の方への食支援について理解する。 認知症の方への口腔衛生管理、口腔機能管理について理解する。 E-2-4)-(11)、E-5-1)	飯田貴俊
10	摂食嚥下障害のリスクマネジメントと予防法	摂食嚥下障害で起こりうるリスクについて説明できる。 摂食時に確認すべきバイタルサインについて説明できる。 窒息時の対応について説明できる。 口腔咽頭吸引、排痰法、呼吸リハビリテーションについて説明できる。 E-1-4)-(1)	飯田 貴俊
11	摂食嚥下障害患者への口腔衛生管理	摂食嚥下障害患者の口腔内の特徴とアセスメント法を説明できる。 専門職による口腔衛生管理として、バイオフィルム除去等の目的、手技を説明できる。 E-5-1)、E-5-2)	飯田 貴俊
12	地域での食支援の取り組み	かかりつけ歯科医の役割について理解する。 歯科訪問診療でおこなう摂食嚥下リハビリテーションについて理解する。 歯科診療所、大学病院との連携でおこなう摂食嚥下リハビリテーションについて理解する。 A-7-1)、A-7-1)、E-5-1)	濱田 浩美
13	その他のリハビリテーション：睡眠歯科	睡眠障害について理解する。 睡眠時無呼吸の評価について理解する。 睡眠時無呼吸の治療法について理解する。 E-6、E-2-4)-(11)、	奥野 健太郎
14	構音障害の概要 構音障害の評価	構音障害の分類と特徴について理解する。 構音障害の評価法について理解する E-2-2)、E-2-4)-(11)	飯泉 智子
15	構音障害への介入	構音障害のリハビリテーションの基本的な考え方を理解する。 E-2-4)-(11)	飯泉 智子

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

試験（100％）

【教科書】

よくわかる高齢者歯科学 第2版 永末書店 佐藤裕二、植田耕一郎、菊谷 武 編 2023年

【参考書】

新版歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学 医歯薬出版 向井美恵、山田好秋、井上 誠、弘中祥司 編著 2019年
摂食嚥下リハビリテーション 第3版 医歯薬出版 才藤栄一、植田耕一郎 監修 2016年
訪問歯科診療プランニングの極意 第1版 飯田良平 監著 2019年

【学修の準備】

予習は、次回の授業範囲の教科書『よくわかる高齢者歯科学』や4年次『高齢者・障害者歯科学』授業プリントの該当部分を読み、疑問点を整理しておく（50分）。

復習は、教科書、授業プリントを活用し、理解を深める（50分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。

DP 4. 多職種（保健、医療、福祉、介護）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる能力を身につけている。

DP 5. 歯科医療の専門家として、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野を持ちながら活躍できる能力を身につけている。

【実務経験】

飯田 貴俊（歯科医師）、奥野 健太郎（歯科医師）、濱田 浩美（歯科医師）、飯泉智子（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

それぞれの障害に対するリハビリテーション診療に関して十分な実務経験のある歯科医師および言語聴覚士が担当している。